

IV 農業・農村の振興に関する施策の推進方針

本計画に示している生産努力目標の達成に向けて、道をはじめ市町村、農業者・農業団体、試験研究機関、消費者など関係者が一体となって、次に掲げる方針により施策を推進し、本道の優れた潜在力を最大限に活用し、安全で良質な農畜産物の安定的な生産とともに、活力に満ち、心豊かに暮らしていける農村づくりをめざします。

1 農業・農村の役割・機能に対する道民意識の共有

本道の農業・農村を貴重な財産として育み、将来に引き継いでいくためには、農業・農村に対する道民理解の促進が不可欠であることから、道では、食料供給や就業の場の提供といった役割をはじめ、国土・環境の保全や美しい農村景観の形成、自然体験・農業体験などの教育の場の提供などの多面的な機能を発揮していることについて、道民のコンセンサスづくりを推進します。

2 需要に応じた安全・安心な食料の安定供給とこれを支える持続可能な農業の推進

本道の農畜産物に対する消費者の期待と信頼に応えるため、クリーン農業など環境と調和した持続的な農業の推進とともに、地域の実情に即した生産基盤の計画的な整備や生産性向上に向けた新品種・新技術の開発・普及などにより安全・安心な食料を適切な価格で安定的に生産、供給します。

3 国内外の食市場を取り込む高付加価値農業の推進

国内外の食市場の変化への対応や成長が見込まれる世界の食関連市場の取り込みに向けて、消費者ニーズに的確に対応した生産・供給を進めるとともに、6次産業化や地域の特色を活かしたブランド化の推進、農畜産物等の輸出促進に向けた環境整備を推進します。

4 農業・農村を支える多様な担い手の育成・確保

地域農業を将来にわたり支えていく後継者や意欲の高い新規参入者の育成・確保を推進します。

また、新規就農者の受入先ともなる法人組織経営体の育成とともに、酪農ヘルパーやコントラクターなどの地域営農支援システムの確立などにより、地域の多様な担い手を支援します。

さらには、農業就業人口の4割を占める女性農業者が、生産や経営面をはじめ、様々な場面で活躍できる環境整備を推進します。

5 農業生産を支える基盤づくりと戦略的な技術開発・導入

農地の生産力を最大限に引き出し、収量の向上を図りながら安全で良質な農産物を安定的に生産するため、農業生産基盤の整備を計画的に進めるとともに、農地中間管理機構を活用した担い手への農地の集積・集約化を進め、農地の効率的な利用、優良農地の確保を推進します。

また、多様なニーズに対応した新品種・新技術や、ICTを活用した省力化や高品質化などスマート農業の実現に向けた新技術の開発・普及を進めます。

6 活力に満ち、心豊かに暮らしていける農村づくり

農村地域の多様な資源を発掘し、その資源を活かした農村づくりを推進するとともに、農業・農村の有する多面的機能の発揮に向け、地域住民なども参画する共同活動を支援します。

また、農業・農村への関心の高まりを踏まえ、グリーン・ツーリズムなどの取組を通じて都市と農村の交流、さらには農村への移住・定住を促進するとともに、地域コミュニティの維持向上のほか、安全で快適な生活環境の整備や高齢化にも対応した医療・保健・福祉サービスの充実など、誰もが安心して暮らせる社会サービスの充実に取り組みます。